

4. 水道料金改定に伴う水道事業収支シミュレーション結果

(1) シミュレーション条件

資料3-1でご提示した改定水道料金体系(案)により、水道料金改定を実施した場合の水道事業収支シミュレーションを以下の条件に基づき試算しました。

【シミュレーション条件】

- ① 料金収入は平成 28 年度までは水道事業決算見込、平成 29 年度は水道事業予算、平成 30 年度以降は「阿見町水道施設整備基本計画(平成 28 年 6 月更新)」の有収水量値により試算しております。
- ② 平成 30 年度以降、大口需要者による需要水量の増量が予定されております。需要水量の増加として平成 29 年 5 月時点における水需要調査の回答より年間予測値を採用しております。

(2) 水道事業収支シミュレーション結果

以上の条件において水道料金改定に伴う水道事業収支シミュレーションを試算した結果が資料4-2となります。

また、水道事業収支シミュレーションの詳細結果が資料4-現行、資料4-改定①、資料4-改定②、資料4-改定③となります。合わせてご覧ください。

水道事業収支の期末資金残高は、水道事業の「現金預金」の残高を表しております。

平成 33 年度、平成 36 年度において「阿見町水道施設整備基本計画」(平成 28 年 6 月更新)に基づく設備投資額が増大するため、現行料金体系、また改定案①、改定案②において期末資金残高がマイナス(資金が不足する)となる試算となっております。

◎ シミュレーション結果Ⅰ (現行料金体系・改定案①・改定案②について)

現行料金体系、改定案①、改定案②ともに近い将来には資金が不足する結果となっており、水道料金の値上げが必要となります。

ただし、資料2にて説明しました「水道事業施設及び配水管の整備計画」の元となる「阿見町水道施設整備基本計画」(平成 28 年 6 月更新)を定期的に見直し(通常 4 年周期で行っております)、施設整備に係る設備投資額の支出を抑えることにより、近い将来資金が不足する結果を回避できる可能性もあります。

◎ シミュレーション結果Ⅱ (改定案③について)

「阿見町水道施設整備基本計画」に基づく設備投資を予定通り実施するには、資金残高が不足してしまう事態を回避するため(必要な水準を水道料金収入で賄う)少なくとも改定案③の料金水準が必要ということになります。